

～医療生協健文会の職員のみなさま～

# メロス通信 不定期便



Vol.04

2023年2月号

発行：地域福祉室

～医療生協組合員の活動は、

地域に広がる「生きにくさ」に向き合っています～

「出資」「増資」「組合員ふやし」「ころぼん体操などで大忙しに見える組合員活動支援部ですが、もっと違う活動にも熱心に取り組んでいます。食料支援を通して「医療生協組合活動の底力」について触れてみます。

炭鉱、漁業、宇部興産で栄えた宇部市も時代と共に豊かさが失われ様々な生きにくさが覆い隠されているようです。活気を取り戻そうとしても人間関係が希薄になり高齢化もあいまって組合員さんの大きな悩みです。一緒につながり、生きにくさを掘り起こし、みんなで健康に暮らしていける町づくりを目指し取り組んでいるのが2か月に1回開催されている食料支援です。



\*みんなで振り返りをしています

1月25日に行われた協立病院での食料支援はカンパ箱に17,675円もの募金が集まり、上宇部クリニックと組合員さんから野菜を提供してもらい少し豪華な品物をお届けできました。組合員の西島さんは「病院でこんなに重たい、沢山もらって嬉しい言っていた人がいて、本当にうれしかった」と笑顔で話します。

他の組合員さんからは「子どもたちの支援をどうすればいいか」という声が上がります。実は宇部でも山陽小野田市でも食料支援を通じて子育て世帯の貧困や虐待が見えてきました。本当に食材をお渡しする意義は、その場の支援に終わらず繋がり続け支えあっていくものだと組合員さんは感じています。



写真には馴染みの顔が写っています。食料支援には「自分も困っているけれど誰かのために何かしたい」という助け合いの心が込められています。私たちはこうした活動を通して対等・平等で平和な社会を目指しています。地域福祉室はこの活動を応援すると共に組合員さんと一緒に地域の問題に向き合っています。それから職員に何かと見えてこない組合活動支援部の活動ですが、こうした組合員さんの活動を支え掘り起こす貴重な任務を担っています。華々しい医療や介護の影で草の根の活動する支援部員をみなさまからも応援していただきたい。そして歯科・病院・診療所受付にある食料支援の募金箱に少しでもハートのお裾分けをお願いいたします。

## 県連ソーシャルワーク委員会報告

山陽小野田市の国保年金課が「短期保険証の方には原則、高額療養費制度は適応しない」としたケースがありました。このようなケースは初めてでした。他病院の相談員に聞いてみると「そんなケースは聞いたことがないが山陽小野田市は担当者によって対応が違う。自己責任で終わらせてしまう職員もいる」と言います。ここで見てきたのは山陽小野田市の行政が地域の実情をあまりにも知らなすぎることです。

本ケースについては病院で対応中ですが、山口民医連として患者さんや地域にお住まいの方の実情を普段から伝えていく必要があります。これから定期的な県連レベルでの行政との懇談を検討して行きます。